つれづれなるまゝに・・・

「情けは人の為ならず」

～常総市災害救援ボランティア活動に参加して（１）～

すでに新聞報道等でご存じのとおり，先の台風18号による鬼怒川氾濫により，常総市及びその周辺地域が多大な被害を受けましたが，今なお，復旧のめどがたっていない地域もあります。この度，水害からの復旧に尽力されているボランティアの非営利団体「つながり」から災害支援の誘いを受け，本校では急遽（きゅうきょ）運動部の部員を中心とした救援部隊を編成して支援活動を行ってきましたので，参加生徒の感想等をご紹介いたします。

出かけた日は，先の創立記念日（10月６日）でした。前週の金曜日（２日）に依頼を受け，翌週の月曜日（５日）に募集を行い，翌日（６日）実施という無謀とも思えるような計画に対して，野球部，陸上部，それに一般生徒の合わせて50名の生徒の協力を得て，無事実施することができました。

この稿では，部活動以外の一般生徒で，突然の１日だけの募集にもかかわらず自主的に応募してくれた生徒の感想から，彼らが何を求めてこのボランティア活動に参加したのかなどについて，考えをお伝えしたいと思います。

意見を戴いたのは，３年生の渡邉　裕也さんと加藤　大貴さんの２人と２年生の女子生徒２人です。この４人にはあらかじめアンケート形式の質問に回答していただきました。２年生の女子生徒については，本人の希望により匿名とします。枠外には，私の感想を記載しておきました。

作業に集中する渡邉さんと加藤さん（右）

○　どうして，参加してみようと思いましたか。

・今，私が被災地のために何ができるかと考え，行動に移したかったから。（Ｙさん）
・ニュースなどで被災した常総市のことを見ていて，私にできることがあれば，何かしたいと思っていたからです。（Ｓさん）
・将来の夢が消防士なので，被災地でボランティアをやりたい，人の役に立ちたいという思いから，今回参加させていただきました。（渡邉）
・県内での出来事だったので，何か自分も力になりたいと思い，参加しました。（加藤）

ＹさんもＳさんも「何か自分にできることがあるのではないか」という思いから参加してくれました。渡邉さんは，消防士を目指しているのですね。夢が叶うといいですね。加藤さんも自衛隊への入隊を希望しているとのこと。この経験は，いずれ近い将来に役立てることができるでしょう。

○　校外のボランティア活動に参加したのは，今回初めてでしたか。それとも，ほかに参加した経験がありますか。それは，どのようなボランティア活動でしたか。

・今回が初めてのボランティア活動です。（Ｙさん）
・校外のボランティア活動に参加したのは，今回が初めてです。（Ｓさん）
・学校地域の小さなお祭りのボランティア。ボランティアの講習会（渡邉）
・今回が初めてでした。これからもボランティア活動に積極的に参加したいと思います。（加藤）

被災地に入るような本格的なボランティア活動は，４人とも初めてだったようですが，実際に体験することによって，それまで頭で考えていたボランティアとはまったく異なる体験をしたのではないかと思われます。

○　今回常総市でボランティア活動に参加して，どのような感想をもちましたか。

・復興はしていたが，まだまだ浸水の跡が残っており，それを片付けることは，大変であると感じた。（Ｙさん）
・人のために何かをするということはとてもいいことだと思いました。助け合いは大事だと感じた。（Ｓさん）
・災害でのボランティアは初めてでしたので，とても良い経験になりました。暑い中，服は汚れ，やることは多かったです。しかし，ボランティアを終え，やった分の達成感が大きく，多くの方々で仕事をこなすチームワークを学びました。そして，何より被災地の方々からお礼の話を聞いた時，疲れが吹き飛び，今回のボランティアに参加して本当に良かったと思いました。（渡邉）
・実際に現地に入ってみて，やはり，ボランティアなどの協力がないと，復興はきびしいと思いました。もっと自分も力になりたいです。（加藤）

大変な仕事でもその仕事に対して涙を流して感謝してもらえる経験は，何事にも代え難い経験でした。本当に疲れが吹き飛びますね。

今回の経験は将来同じようなことが起こったときに，すぐさま対応できる基盤になったのではないかと思います。ボランティア活動は，人のためにしてあげるというよりも，お手伝いをさせてもらったという気持ちが大切です。その「させてもらう喜び」を味わえることが助けている人の何よりの宝となるのです。「情けは人の為ならず」といいますが，ボランティア活動もまさに「人の為ならず」です。（つづく）

つれづれなるまゝに・・・

ほかの人に伝えたいこと
～常総市災害救援ボランティア活動に参加して（２）～

10月６日に実施した常総市でのボランティア活動に参加した生徒たちの感想を続けます。

○　今回の経験をほかの生徒たちに伝えたいと思いますか。また，どんなことを伝えたいと思いますか。

・ニュースなどで見るよりも被災地の所へ行って，身体や眼で感じた方が心に残ると思うので，是非参加してほしい。（Ｙさん）
・今回ボランティアを経験して感じたことを他の生徒たちに伝えたいです。（Ｓさん）
・「One for all, all for one.～一人はみんなのために，みんなは一人のために～」（渡邉）
・自分ができることは小さなことかもしれませんが，その小さな力の積み重なりが被災地には大きな力になっていると思います。ぜひ一人でも多くの人がボランティアに参加して，力になってあげてほしいです。（加藤）

今回の経験は，本当に貴重なかけがえのない経験です。是非多くの友人たちに伝えてくれることを期待しています。

○　上記以外に今回のボランティア活動に参加した感想について，自由に書いてください。

・このボランティアで学んだことをこれからに活かしていきたいです。私の地域が被災してしまった時は，私たち（高校生など若い人）が中心になって活動して行きたいです。（Ｓさん）
・今回のボランティアについて，私は自分の意志で参加しました。そこで思ったことがありました。それは，被災した方から，お昼ご飯や飲み物を頂いたことです。被害にあい，大変な思いをしている中，お昼ご飯を私達に提供していただき，申し訳ない気持ちでいただきました。その分午前よりも午後は頑張れ，気合いを入れて取り組むことができました。ありがとうございました。（渡邉）
・今回初めてボランティア活動に参加して，困っている人の力になることがとてもいいことだと思いました。これからも困っている人がいたら，手を差し出せる人間になりたいです。（加藤）

Ｓさんが言ったように，今回参加した皆さんには，是非「このボランティアで学んだことをこれからに活かして（Ｓさん）」ほしいと切に願っています。

ボランティア当日，最後に行ったミーティングにおいて，ボランティア団体「つながり」代表

の勝又さんがおっしゃっていました。「今日君たちが倉庫を整理してあげたおばあちゃんは，水害以来，めっきり元気をなくして，毎日毎日仏壇にお祈りするだけの日々を過ごしていましたが，君たちが来てくれて，きれいに家の片付けをしてくれて，それこそ気が狂いそうなくらい喜んで，君たち一人ひとりに涙を流しながら感謝していましたね。また，酒蔵の社長さんは，始めはもう今年の酒作りはあきらめていましたが，今日君たちが大勢で作業してくれたおかげで，もうボランティアの手を借りなくても自分たちだけでやっていくめどがたったと言っていました。近いうちに酒造りを再開できるのではないかと言っていました。皆さんがお手伝いにきてくれたことに対して心から感謝するとともに，もっともっとボランティアの輪を拡げてほしいと思っています。つながりの輪を。」と。

ミーティングで話をする勝又さん

「これからも困っている人がいたら，手を差し出せる人間になりたいです。」と加藤さんは書いてくれましたが，まさにそのとおりですね。その「手を差し出す」ための始めの一歩を踏み出す勇気が大事ではないかと感じました。　（おわり）

活動後の反省会ミーティングの風景

つれづれなるまゝに・・・

「私がやらなければと意欲が沸いた･･･」
～常総市災害救援ボランティア活動に参加して（３）～

本校の生徒有志50名が，先の創立記念日（10月６日）を利用して常総市災害救援ボランティア活動に参加したことについては，すでにご紹介したとおりですが，実は，その約２週間前に，本校生が個人的に水害被害のボランティア活動に参加していたことを聞きました。

その生徒に「ボランティア体験記」を書いていただきましたので，ここにご紹介いたします。なお，本人の許可を得て，実名で掲載します。

「常総市水害被害ボランティアに参加して」

照山さんは，最後の「感想」に，「これまでにも何度かボランティア活動に参加してきましたが，このようなボランティアは初めての経験でした。私は運動が苦手で中学高校と文化部に所属していたため，体力がありませんでした。そのため，体力勝負のこのようなボランティアで私にできることはあるのだろうかという不安がありました。しかし被災地ではそのようなことを考えている暇はありません。それ程大きな被害を受けていました。現場に立ったとき，私がやらなければという意欲が沸き，気付いたら体が勝手に動いていました。」と言っています。

ボランティアに行くか，行かないかを悩んでいるうちに時間がどんどん過ぎていきます。そんな状況の中で，「自分にもできることがあるかも知れないので，とにかく現場に行ってみよう。」と決断した照山さんは，本当に勇気のある人だと思います。そして，そのような「生きる姿勢」は，今後の人生を自ら切り開いていく原動力となるであろうことを確信しています。お疲れ様でした。（おわり）